

藤岡市 DX アクションプラン

Fujioka City Digital Transformation Action Plan

令和7年度（2025年度）～令和9年度（2027年度）



藤岡市

令和7年(2025年)9月

目 次

1. アクションプランの概要	・・・ 1
2. DX 推進の方向性	・・・ 2
3. 方向性別事業	
デジタル技術を活かした市民の利便性向上	・・・ 3～4
学びの環境と文化資産のデジタル化	・・・ 5
市役所業務のデジタル化による効率化	・・・ 6～8
用語集	・・・ 9

1. アクションプランの概要

(1) 策定の趣旨

本市は、様々な課題に対しデジタル技術を活用することで、さらなる「市民の利便性向上」と「業務の効率化」を達成するため、藤岡市 DX 推進計画（以下「DX 推進計画」という。）を策定しました。

DX 推進計画では、7つの行動指針に基づいて DX※1 を推進し、日常生活においてデジタル化の恩恵が実感できる便利で暮らしやすい藤岡市の実現を目指すこととしています。その具体的な取組を計画化したものとして藤岡市 DX アクションプラン（以下「アクションプラン」という。）を策定し、藤岡市の DX の推進に取り組みます。

(2) 進捗管理

アクションプランについては、毎年度、進捗管理の確認及び課題改善等の検討を行い、必要に応じて内容の修正や追加を行います。

(3) 留意事項

デジタルの活用は、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会を目指すため、未来への必要な投資と考えます。

しかし、デジタル技術の導入や運用には、財源が必要であり有限です。そのためアクションプランの実行にあたっては、ニーズにデジタル技術が合っているか等、注意を払い事業を検討し、優先順位をつけながら柔軟に判断していくこととします。

2. DX 推進の方向性

デジタル技術やデータを活用して市民の利便性を向上させるとともに、AI 等の活用により業務効率化を図り、限られた人的資源を有効に活用し、デジタル技術の活用による変革を推進するため、以下の3つの DX 推進の方向性に沿って取り組みを進めていきます。

① デジタル技術を活用した市民の利便性向上

市民のニーズをきめ細かく捉え「簡単で」、「わかりやすく」、「使いやすい」行政サービスが受けられる市役所の実現を目指します。

② 学びの環境と文化資産のデジタル化

デジタル化社会を見据えた学習環境の整備を進めるとともに、デジタル技術を活用した文化資産のデジタル化を図ります。「いつでも」「どこでも」学ぶことのできる環境、文化と触れ合うことのできる環境の実現を目指します。

③ 市役所業務のデジタル化による効率化

AI※2、RPA※3等の先進技術を積極的に活用し、業務改善による生産性の向上を図ります。職員は、市民との直接対話や企画立案など、市民サービスに直結する業務に注力できるよう業務の効率化を目指します。また、働きやすく、いきいきと、成果を出せる職場環境を整備し、職員のワークライフバランスの実現を目指します。

3. 方向性別事業

① デジタル技術を活用した市民の利便性向上

① オンライン上のサービス利用

No.	項目	令和7年度	令和8年度	令和9年度
1	行政手続きのオンライン化の推進	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶
2	電子契約システムの導入検討	▶▶▶▶		
3	窓口の電子化の検討	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶
4	キャッシュレス決済の拡充	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶

1：令和元年度より群馬県及び県内一部市町村と共同運用する「ぐんま電子申請受付システム（藤岡市）」の運用を開始し、令和5年度より独自に「ふじおか電子申請受付システム」の運用を開始しました。国が運営するマイナポータル内のサービス「ぴったりサービス※4」については令和4年度より利用を開始しました。引き続き電子申請を推進し、市民の利便性向上を図ります。

※「ぐんま電子申請受付システム」については、「ふじおか電子申請受付システム」の運用開始に伴い利用を終了しました。

2：電子契約について、導入メリットや課題等を考慮し、導入の可否を検討します。

3：令和4年度よりマイナンバーカードを利用した住民票等のコンビニ交付を開始、令和5年度に証明書等の自動発行機を導入しました。引き続き「書かない窓口」など窓口の電子化の検討を行います。

4：令和4年度より市税や水道料等へのオンラインでの支払いに、令和7年度より市役所窓口での証明書発行手数料等への支払いに、それぞれキャッシュレス決済※5を導入しました。対象手続きの拡充、決済方法の多様化などを行っていきます。

① デジタル技術を活用した市民の利便性向上

② デジタル情報のオンライン利用

No.	項目	令和7年度	令和8年度	令和9年度
1	市公式 LINE アカウントの機能拡張	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶
2	チャットボット等による自動応答サービス	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶
3	SNS 等による情報発信力の強化	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶

1：令和3年度より市公式 LINE アカウントの運用を開始、令和6年度より市公式 LINE アカウントと連携可能な外部ツールを活用した機能拡張を実施しています。引き続き機能拡張を行っていきます。

2：令和6年度に市公式ホームページ・市公式 LINE アカウントの連携ツールとしてチャットボット※6を導入しました。応答の精度を高めるため、チャットボット内のシナリオの追加・修正を適宜行い、市民の利便性向上を図ります。

3：市公式ホームページ、X、YouTube、Instagram、市公式 LINE アカウント等を活用して市民の求める情報を発信し、市民満足度の向上を図ります。

③ Wi-Fi（公衆無線 LAN）の整備

No.	項目	令和7年度	令和8年度	令和9年度
1	新火葬場（偕同苑）	▶▶▶▶		
2	藤岡市複合施設ふじまる	▶▶▶▶		
3	その他の施設		▶▶▶▶	▶▶▶▶

不特定多数の人が利用する市有施設に、Wi-Fi を整備します。今後も Wi-Fi の拡充を検討します。

② 学びの環境と文化資産のデジタル化

① デジタル技術を利用した学びの推進

No.	項目	令和7年度	令和8年度	令和9年度
1	GIGA スクールの推進	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶
2	図書館における IC タグの活用	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶

1：令和2年度より GIGA スクール構想※7 に伴う整備を開始し、令和3年度末までに校内ネットワークや端末整備を実施しました。

引き続き GIGA スクール構想によって整備した設備を利用し、ICT を利活用した授業を推進します。

2：令和7年10月の複合施設の供用開始に合わせ、図書館に IC タグを導入し、蔵書の管理やセルフ貸出機での利便性向上を図ります。

② 歴史資産のデジタル化

No.	項目	令和7年度	令和8年度	令和9年度
1	デジタルアーカイブコンテンツの活用	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶

令和3年度より「藤岡デジタル博物館」の運用を開始しました。引き続きコンテンツの充実を図り、郷土学習を推進します。

③ オンラインでの図書閲覧

No.	項目	令和7年度	令和8年度	令和9年度
1	電子図書館の充実	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶

令和2年度より「電子図書館」の運用を開始しました。引き続き電子図書の充実を図り、本に親しみやすい環境づくりを推進します。

③市役所業務のデジタル化による効率化

①庁内事務のデジタル化の推進

No.	項目	令和7年度	令和8年度	令和9年度
1	電子決裁・文書管理システム	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶
2	住民系情報システムの標準化・共通化	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶
3	先進的な技術の活用によるデジタル化の推進検討	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶

- 1：令和5年度に「電子決裁・文書管理システム」を調達し、令和7年度より運用を開始する予定です。庁内文書の電子化を図り、意思決定の迅速化を図るとともに、ペーパーレス化を推進します。
- 2：令和7年度に住民系情報システムの標準化・共通化システムへの移行が予定されています。適宜・適切にシステムの移行が完了するよう事務を進め、移行後はシステムの安定運用を図ります。
- 3：インターネット（クラウド）上に設置されたPBX（電話交換機）を利用する「クラウド PBX」など、先進的な技術を活用した庁内事務のデジタル化の推進について検討を行います。

③市役所業務のデジタル化による効率化

②デジタルデバイスの利用による業務の効率化

No.	項目	令和7年度	令和8年度	令和9年度
1	業務システムの検討と推進	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶
2	AI-OCR、RPA の効率的な運用	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶
3	生成 AI の活用	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶
4	ビジネスチャットの活用	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶
5	会議のデジタル化の推進	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶

- 1：令和4年度に「勤怠管理システム」の調達を行い、令和5年度より運用を開始しました。引き続き検討を行い、導入が効果的と考えられるものから順次導入を進めていきます。
- 2：令和4年度に AI-OCR^{※8} ツール及び RPA ツールを導入しました。引き続き活用を進め、創出された時間と労力を、市民との直接対話や企画立案など、市民サービスに直結する業務に充てることで、限られた人的資源を最大限に活用していきます。
- 3：令和5年度より生成 AI の活用を開始しました。引き続き活用を進め、行政サービスの質の向上、業務の効率化を図ります。
- 4：令和4年度よりビジネスチャット^{※9}を導入し、DX・防災・子育てなど多様な分野で活用しています。引き続き活用を進め、情報共有の効率化を図ります。
- 5：令和2年度より「ペーパーレス会議システム」を導入し、会議のデジタル化を図ってきましたが、令和7年度に事務用端末のノート PC への移行が完了する予定であることから、「ペーパーレス会議システム」の運用を終了し、以降はノート PC を活用した会議のデジタル化を推進していきます。

③市役所業務のデジタル化による効率化

③官民での情報資産のさらなる活用

No.	項目	令和7年度	令和8年度	令和9年度
1	オープンデータの活用	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶
2	統合型 GIS の活用	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶

1：令和2年度よりオープンデータ※10の活用を開始しました。引き続き藤岡市公式 HP 内「藤岡市オープンデータサイト」に公開可能なオープンデータについては掲載し、官民双方での活用を推進していきます。また、民間事業者等の公開するオープンデータについても活用を検討していきます。

2：令和5年度より市民の利便性を向上させる公開型 GIS※11と業務効率化を図る庁内型 GIS を統合した統合型 GIS「ふじまっぴ」の運用を開始しました。引き続き、市民の利便性の向上、業務の効率化のため、集約可能な地図システムについては統合型 GIS に集約していきます。

■用語集

※1	DX	Digital Transformation (デジタル・トランスフォーメーション) の略 デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること
※2	AI	Artificial Inteligence の略 人間の知的能力をコンピューター上で実現する様々な技術・ソフトウェア・システムのこと コンピューター自身が学び、本来人間にしかできなかったような作業や判断を行う
※3	RPA	Robotic Process Automation の略 定型作業をソフトウェア型のロボットが代行して行い、作業を自動化するもの
※4	ぴったりサービス	国が運営するマイナポータル内にあるサービス。マイナンバーカードを利用して手続きの検索や電子申請ができる
※5	キャッシュレス決済	紙幣・硬貨といった現金を使用せずに、クレジットカード・電子マネー・二次元コードなどを利用して支払いを行うこと
※6	チャットボット	チャットとロボットを合わせた言葉。AI を活用した自動応答システム
※7	GIGA スクール構想	児童・生徒に 1 人 1 台の端末 (パソコンやタブレットなど) を用意するとともに、高速大容量のネットワーク環境 (校内 LAN など) を整備する取り組み
※8	AI-OCR	OCR (光学文字認識) の技術に AI (人工知能やディープラーニング) を加えたもの。AI 技術を組み合わせることで、機械学習による文字認識率の向上などが可能となる ※OCRとは「Optical Character Reader (または Recognition)」の略語で、スキャンした書類などの画像データに含まれる文字を読み取り、デジタルデータ化する技術のこと
※9	ビジネスチャット	業務利用を目的としたコミュニケーションツールで、メール等と比べ情報共有のスピード向上が期待できる
※10	オープンデータ	特定のデータを著作権などの制限なしで全ての人が望むように利用できるよう、定型の形式で公開するもの
※11	GIS	Geographic Information System の略 地図データなどの位置に関する情報を地図上に重ね合わせて表示し、管理・分析するためのシステム